

業興研  
(小樽市)

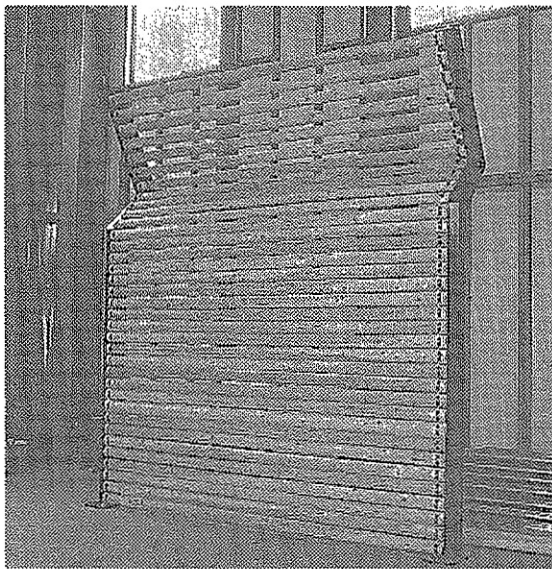
# 北海道立林業試験場と共同研究

## 木製防雪柵を新開発

### カラマツ間伐材利用促進にも寄与

防雪柵メーカーの理研興業(本社・北海道小樽市柴尾耕三社長)では、北海道立林業試験場と共同開発を行い、強度性能に優れた鋼材と景観性能に優れた

木材を組み合わせた『木製高性能防雪柵』『写真上』を開発、昨年十二月から販売を開始した。優良な木材を育成させ、健全な森林とするためには



間伐を行うことが不可欠となっており、そのため林野庁では平成十二年度から緊急間伐総合対策を実施。間伐材の利用促進を図っている。これを背景に有効利用の方策を模索していた道立林業試験場と、眺望や景観に対する関心の高まりの中で木材を利用した防雪柵を開発したいと考えていた同社が、共同で間伐材を利用した木製防雪柵の開発に着手した。

共同開発に当たっては、ただ単に間伐材を利用した木製の防雪柵ではなく、同社が開発した高性能防雪柵の特徴を保持させるよう工夫した。半割とした木材の

流体特性を生かすとともに、間伐材の加工精度を高めた上で、柵風下側の下降流を制御する構造を採用。これにより、風下側での堆積がほとんど生じないため、道路に近接した路肩などに設置が可能となるなど、鋼製のものと同等の効果がある。

一方、道路に近接した所に設置する場合、景観への配慮が重要視されるが、カラマツ材は木目や色合いが美しいことから、景観問題にも対応している。

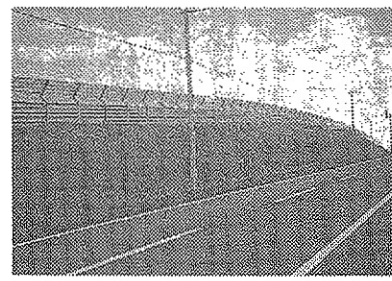
また、強度面では鋼材と木材のハイブリッド構造を採用。当初、課題とされたカラマツ材の耐用年数についても、通常十年(樹齢五〜六年のもの)程度とされる同材を防風処理し、鋼材と同等とすることを目指している。

昨年十二月から販売を開始したのは、自立式の高性能木製防雪柵で、柵高は三・五〜五m。高性能な木製の防雪柵としては初めてとなるもので、現在、林業試験場と共同で実用新案権出願中。

国や県が景観に関する方針・指針案を策定し、各種事業の堆積に当たり景観保全の施策を強化する中、強度の確保と景観への配慮という二つの長所を兼ね備えた画期的製品として大きな注目を集めつつある。

一方、同社が一昨年開発した『誘導板付忍び返し柵』『写真下』も着々と設置実績を伸ばしている。この防雪柵は、従来の吹止式と吹抜式の両方の利点を持つ製品で、用地買収が困難な場所や予算に制約のある箇所などでは路肩に設置可能であり、視程障害緩和領域が広いのが最大の特徴。国土交通省の新技術情報システム(『NETIS』)にも登録されており、青森河川国道事務所管内など二ヶ所に続き、切土区間の道路上への雪堆積が問題となっていた県道十腰内陸奥森田停車場線をはじめ、すでに県道では四路線に採用されるなど高い効果に関心が寄せられている。

同社の柴尾社長は「木製防雪柵は、景観という要素を取り入れた、時代のニーズに合った製品で、耐久性



詳細の問い合わせは、同社東北営業所(青森市古川一丁目十番十三号 青森古川ビル二階) 電話017-735-1888 FAX 017-735-1251 1)まで。

## 環境にやさしく

＝ 販売を開始好評 ＝

## 優れた景観性能発揮